



いきいき北っ子

幼児期における命の教育

寒かった先週とは打って変わり、今週は、暖かさを感じられるようになりました。春はすぐそこまで来ています。気温の変化が大きい季節の変わり目は、体調を崩しやすいので、お子さんの体調管理には十分配慮してまいりたいと思います。

さて、毎月行っている誕生会。誕生会は、友達や家族、先生からお祝いしてもらい、自分の成長を実感できる貴重な場です。もちろん、家族の支えがあって成長していますが、自分一人ですることがどんどん増えますので、本人や家族にとって喜びは大きいものと拝察します。

一方、子ども達には難しいかもしれませんが、誕生会は、自分一人の力では成長できないことを再確認する場になっています。つまり「生き合っている」ということを感覚的にとらえる場だと考えています。

これからも誕生会を大切に、一人一人がかけがえのない存在であることを確かめながら、自己肯定感を高めていきたいと考えております。

最近、命に関わる痛ましい事件をテレビなどで話題になると心が痛みます。たびたび職員間でも話題にし、命の大切さをきちんと子ども達に伝えていかなければいけないと考えていたところ、幼児期から命の教育の啓発に尽力している「Life（助産師/思春期保健相談士）」の方をお招きする機会に恵まれました。年長児を対象に、男女の体の違いやプライベートゾーン、命の誕生に関わる話を聞きました。専門的な知識をもった方の話は分かりやすく正しく理解することができました。

第3回こども園運営協議会（2月26日）

保育の様子を参観していただいた後、委員の皆様からご意見をいただきました。

- 子どもが明るく表情がやわらかい。かわいい中にたくましさも感じられた。
- 委員に進んで話しかける子どもの姿が見られ成長を感じた。
- 進んで挨拶する子どもが多いことに驚いた。
- 多くの学年の子が園庭で遊んでいたが、トラブルにならないよう子どもなりに工夫して遊んでいる。
- 保育室にのびのび描いた絵が飾ってあったが、心が解放されていることがわかった。
- 活動の仕方を教えるだけでなく、活動の意味や値打ちを意図的に考えさせていた。
- 行事を通して子どもがたくましくなっていることを実感した。日頃の保育で先生が愛情をもって接しているからだろう。自分が「愛されている」ということを実感している証拠である。
- 花の世話など、子どものためにできることは協力していきたい。 など

委員の皆様から温かな励ましのもと、取組についてご理解をいただくことができました。

来年度も豊かな体験活動を大切にしながら、自己肯定感を高めると同時に、非認知能力の基礎を育ててまいります。



誕生会の様子(年少児)



助産師さんから体の違いの話を聞く

